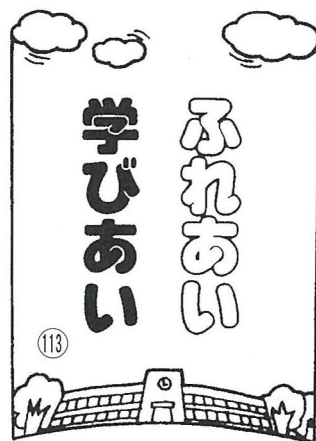




中学校 姉妹校の メイビル中学校を訪問

9月23日から30日にかけて、姉妹校として、交流を続けているアメリカ合衆国メイビル中学校に中学校生徒3人（鈴木大貴さん、さん、伊藤望さん）と小山克己先生が訪問しました。



異国の文化にふれて

二年 鈴木 大貴

昨年の10月に、姉妹校の訪問で僕達家族がホストファミリーとしてゴーデーという少年を迎え入れました。そして僕はその後からアメリカに強い興味を持ちました。

そして今年、学校では「メイビル中学訪問の募集」とめったにないこのチャンスに僕は早速申し込み、幸運にもそのチケットの一枚を手にしアメリカへ行く事ができました。

島国の日本とは違い、国の大きさはもちろん、大きい家や、大きい庭、見る物全て、日本とのスケールの違いに驚かされました。

物事にとらわれない大らかな心、そんなアメリカを僕は一遍で気に入ってしまいました。

多少生活様式や習慣の違いはあるけれど、近い将来またアメリカを訪れたいと思います。

そして今度は是非、日本の文化や習慣を教えてあげようと思います。

アメリカへ行つて

二年

自由の国アメリカ。それは人々のやさしさで満ちあふれている国でした。

私はアメリカに行つて気づいた事があります。それは日本はアメリカに見ならなければならぬところが多々あるということでした。まず感じたことはメイビル中学校でのことでした。私達が9才ぐらいの子供達に日本語の数のかぞえ方を教えている時のことでした。私達が「何か質問ありますか？」と聞くと、

たくさんの方が上がりとても驚きました。日本人の同じ年ぐらいの子供なら遠慮して手をあげる人はほんの数人でしょう。私は「一人一人がきちんと自分の意見を持ち相手に伝えることができるなんてすごいなあ。」と思いました。私はアメリカに行き、数多くの事を学びました。これを普段の生活にも生かしていきたいと思いました。

かがメイビルへ行き、日本の伝統や文化などを教えてきます。そして今年は私を含め、3人の生徒が派遣されました。

メイビルに行つて感じたことは、第一に土地が広いことです。酪農が盛んということもあり、見わたす限り草原でアメリカは広いなと実感しました。

困ったこともいくつかありましたが、向こうでの食事が合わなかったり、時差ボケで寝れなかったりと様々でした。中でも、会話が一番困りました。しかし、最後のほうには慣れ、会話も少しずつできるようになってきました。

私は今回の訪問でコミュニケーションの大切さを学びました。これからは学んだ事を生かし、生活や社会に役立てていきたいです。



メイビルを訪問して

二年 伊藤 望

私たちの通っている光中学校では、アメリカのウィスコンシン州にあるメイビル中学校と交流を持っています。毎年、二年生の何人

地平線の国で

教諭 小山 克己

ハイウエーを併走していた大きなトレーラーが私達の車に置き去りにされると徐々に悠然と広がるウィスコンシンの丘陵地帯が広がっていききました。果てしなく

続くその大地の先には何があるのであらう。これから、メイビルを訪れる私達におおよそ2百年前にビルグリムファーターとして入植をし、西部を目指していったパイオニアにも似た気持ちを抱かせてくれました。

今年度の訪問のテーマは「地域の探索」でした。週末はホストファミリーと過ごす時間をたっぷり取り、メイビルとその周辺の散策に時間を費やしました。また、2学年では総合学習で「福祉」について学んでいることから是非、福祉の先進国であるアメリカでの様子を学ばせたいと考えメイビルの老人介護施設を見学しました。

7泊8日の日程の中で4泊5日をメイビルで過ごしたわけですが、短い期間では、やり残したことが多過ぎます。いつの日か、生徒がその宿題を仕上げるために再度メイビルを訪れる機会があればと思います。そして、その時にアメリカの本物の素晴らしさを理解できることを願っています。